JHFレポート５・６月号　平成12年2月14日第三種郵便物認可　平成12年4月20日発行　年6回偶数月の20日発行 No.159

JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

5・6月号
2000年

（社）日本ハンググライディング連盟 発行　http://jhf.skysports.or.jp/

2000年度がスタート！

20世紀から21世紀へ
空を飛ぶ喜びを未来へ伝えたい。

20世紀最後の春が来た。

この100年に、人類はさまざまなものを手に入れた。暮らしを便利にするもの、楽しくするもの、豊かにするもの……。そのなかで「空を飛ぶ道具」は、一際強い光を放つ。人間の手になる翼は、我々の視野を広げ、活動範囲を一気に地球規模に拡大し、生活に驚くべき変化をもたらした。また、自分自身の力で大空を舞う喜びを与えてくれた。地上に生きる人類が、鳥の視点を手に入れる。それは何と多くの発見を伴ったことか。

21世紀。我々の翼、ハンググライダー・パラグライダーは、どのように進化していくのだろうか。

二つの世紀にまたがる年度の始まりに、空を飛ぶ喜びが、より広く、そして何世紀にもわたって伝えられていくことを願う。

＊

新年度スタートに合わせ、JHFレポートも誌面を一新しました。今後、さらにわかりやすく読みやすいレポートをめざします。

JHF広報出版局

JHFレポート　5・6月号　Contents

P2　特集－1　JHFは、これからこんなことをします。
2000年度のJHF事業と予算が決まりました。

P4　特集－2　http://jhf.skysports.or.jp/ ホームページを活用する!
JHFのホームページ、見たことありますか。

P6　県連だより　P7　県連ニュース　理事活動報告
P8　委員会の動き　P9　理事会ダイジェスト
P10　CIVL報告　補助動力委員会から
P11　アクシデントレポート　JHSC議事録
P12　@sky　エッセイ・マンガも!楽しさいっぱい情報ページ。

特集―1

JHFは、これからこんなことをします。

〈2000年度の事業方針・計画と予算〉

3月28日のJHF3月通常総会で、理事会が上程した事業方針案と事業計画案、予算案が承認され、2000年度のJHFの動きが決まった。

■事業方針

2000年1月1日、(財)日本航空協会のフライヤー登録(航空スポーツ登録制度)がJHFに移管され、念頭のJHFフライヤー会員登録が始まった。合わせて、JHF会員規約、JHFフライヤー会員規程、JHF賛助会員規程を施行。これでようやく、会員から集めた会費によって運営するという、社団法人として本来あるべき姿になったわけだ。

しかし、フライヤー登録数は、あいかわらずの減少傾向にあり、エリアによっては寂しい風が吹いている。社会全体の経済状態を考えれば、それもしかたないことなのかもしれない。が、それだけだろうか。日本経済の落ち込み以外にも、この人口減の原因があるのではないか。ハンググライディング・パラグライディングの魅力をもっとアピールして、新しい仲間をふやすこと。フライヤーが長く飛び続けられる環境を整えること。安全性をさらに高めること。これらに一層力を入れて普及振興を進めなければ、ハング&パラの明日は暗い。

そこで、JHFは以下のような方針の下、今年度事業を行うことにした。

〈ハング&パラ振興の促進〉
一般の人々とフライヤーが一体になれるような催しを考える。

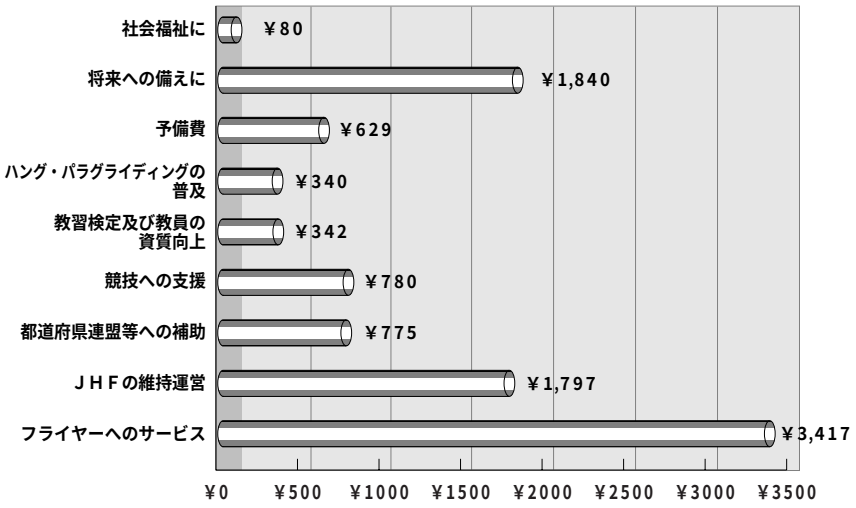
〈国民に親しまれるスポーツに〉
日本体育協会や日本レクリエーション協会等への加入を促進。また、厚生施設を慰問したり、ハンディキャップのあるフライヤーを後援する。

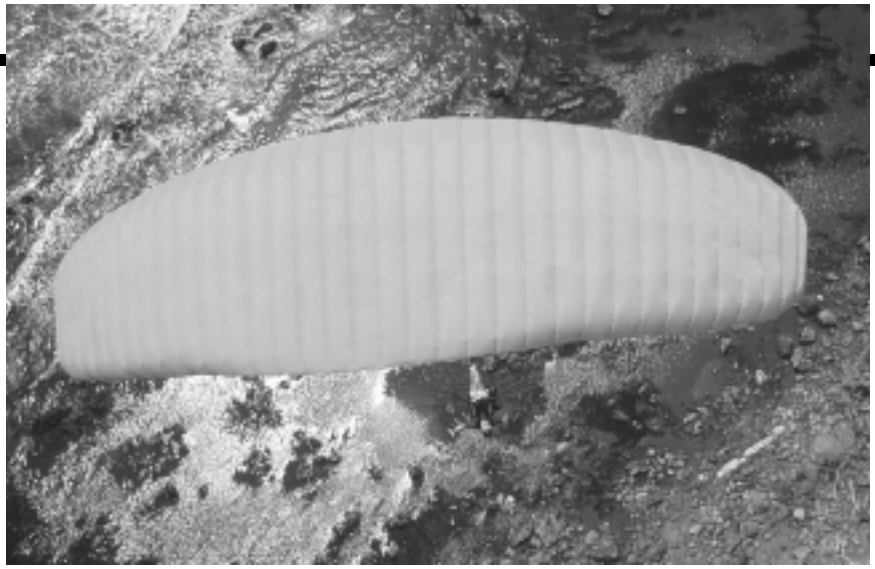
〈会員へのサービス向上〉
組織機能を強化、事務局機能を充実させる。正会員の組織作りを手伝う。

〈教員再教育とスクール支援〉
情報を迅速に提供し、JHF白書を発行する。教員更新講習会やスクーリングセミナー等に取り組む。また、スクール登録制度を推進する。

〈安全性の向上〉
日本ハンググライディング安全性委員会のあり方を見直す。フライト環境を整備する。レジャー航空無線の積極的活用。

予算1万円のゆくえ





JHF3月通常総会

3月28日(火)、東京都の羽田空港ターミナルビル・ビッグバードのホールにおいて、3月通常総会を開催。定数47のうち、37の正会員が出席(委任状3、欠席7)し、以下の議案について採決された。議長は静岡県フライヤー連盟の森下英樹氏。

・第1号議案:(社)JHF定款の一部改正について―賛成37、棄権1 で可決(この時は欠席8)。
・第2号議案:1999年度JHF会計補正予算(案)の決定について―賛成38、棄権1で可決。
・第3号議案:2000年度JHF事業方針(案)の決定について―賛成38、棄権1で可決。
・第4号議案:2000年度JHF事業計画(案)の決定について―賛成38、棄権1で可決。
・第5号議案:2000年度JHF収支予算(案)の決定について―賛成34、反対4、棄権1で可決。

■事業計画

以上のような方針に基づく事業計画の中で、昨年度と変わらないものとしては、会員証や技能証の発行、JHFレポート発行、ホームページ運営、ハング&パラのポイント計算、大会公認、日本選手権開催、事故調査、機体登録等があげられる。目新しいところでは、以下の事業が計画に入っている。

〈情報提供ルートの確立〉
これまでほとんどできなかった、一般の人々やメディアへの情報提供を、積極的に行う。ホームページの一般向け情報の充実や、メディアへの資料送付を予定。

〈スクール登録制度の確立〉
JHF教員の運営するハング・パラグライディングスクールを後援する。スクール情報の収集と交換・広報、スクーリングの研究や研修会の実施等を行う予定。(社)JHF スクール登録規程が2 月理事会で承認され、2000年4 月1 日に施行された。

〈レクリエーション協会・体協加入〉
日本レクリエーション協会・日本体育協会に加入し国民的スポーツをめざす。

〈集金システム構築〉
事務局の集金システムを構築し、より迅速な対応を図る。

〈身障者への環境提供〉
ハンディキャップのある人がハング&パラを始められる、飛び続けられる環境を考える。

〈厚生施設への慰問〉
サンタクロースに扮したフライヤーが保育所を訪問する等、社会奉仕的活動をする。ハング&パラへの理解を深めてもらうきっかけにもなる。

〈JHFフェスタ開催〉
ハング&パラ界のムードを盛り上げ、一般にこのスポーツの魅力をアピールするため、フェスタを開催する。

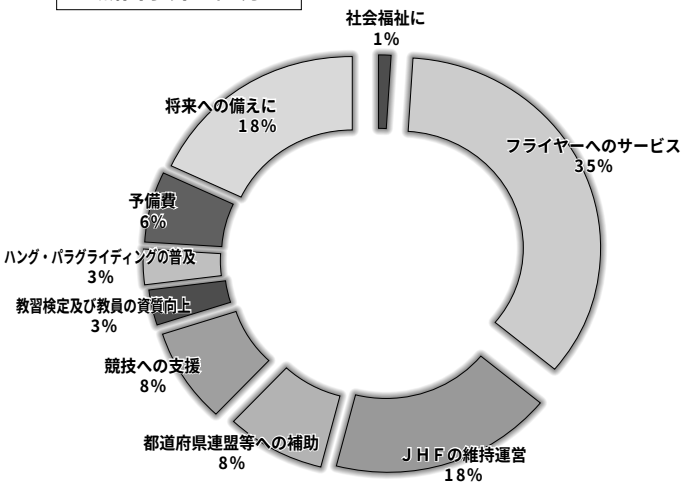
〈アクロバティック選手権の調査〉
ヨーロッパではパラグライダーのアクロバティックチームを作っている国もあり、現状を調査する。

■予算

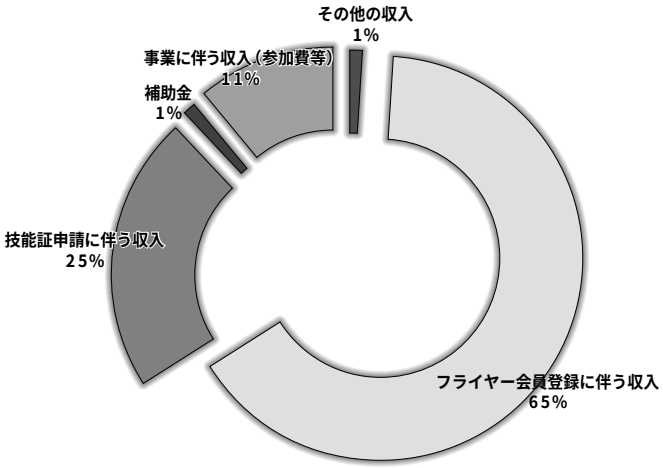
フライヤー会員登録が始まり、会費収入があるとはいえ、状況は予断を許さず、今年度も緊縮型予算だ。

JHFがどこから収入を得て、どのような配分で各事業に遣っているかをグラフにしたので、とくとご覧あれ。

歳出予算の配分

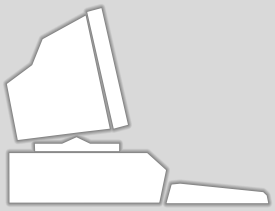


歳入のあらまし



特集―2

http://jhf.skysports.or.jp/ ホームページを活用する！



近くのスクールを調べたい、県連盟の連絡先を知りたい、大会の予定を確認したい……
ＪＨＦの事務局に聞けばわかるのかな、インストラクターに聞く方がいいかな……
そんな時は、迷わずＪＨＦホームページを利用しよう。

世はインターネット時代。パソコンがなければ夜も日も明けぬという人は相当数にのぼるだろう。ホームページもたいへんな数だ。ハング・パラグライディング関係のページもいろいろある。エリア・スクールの紹介や、フライトレポート、エッセイ、風情報など、それぞれに楽しめる。わがJHFも、もちろんホームページを持っている。フライヤーでこのページを知らない人はモグリだ(？)。「連盟のページなんて退屈そうだね」と敬遠する前に、ちょっとのぞいてみよう。使える情報がワンサカ載っているから、これを利用しない手はない。

現在、わかりやすく見やすいページをめざして試行錯誤中なので、デザインなど、いまひとつだなぁという面もあるけれど、それはこれから。まずはどんな時にお役に立つか紹介しよう。

●ハング・パラグライディングを知らない人に、どんなスポーツなのか説明したい。
◆それはもうお任せください。「ハンググライディング・パラグライディングはこんなスポーツ」を見ればOK。同じ内容のリーフレットもあるから、希望者はJHF事務局に連絡を。
●JHFって何してるのかな。
◆直接フライヤーの利益になることはもちろん、一般市民のためになり、回り回ってフライヤーも得する、そんな活動もしている。「JHF活動概要」をご覧あれ。前記のリーフレットにこの概要も載っている。
●フライヤー会員登録とかいうのが始まったんだって？
◆今年の元日からスタート。3月末で1802人が会員に。「JHFフライヤー登録Q&A」で詳細がわかる。
●都道府県の連盟に連絡したい。

■ハンググライディング・パラグライディングはこんなスポーツ
■JHF活動概要
■トピックス
■JHF事務局のページ
■JHFフライヤー登録Q&A
■JHFレポートの閲覧
■ニュースとインフォメーション
■全国都道府県連盟一覧
■スクール情報照会
■イベントカレンダー
■パイロットNo.　教員No.検索
■申請用紙

スクール情報もバッチリわかる。

◆「全国都道府県連盟一覧」をクリック！　各県連盟のホームページにリンクしているので、ここからどうぞ。
●引っ越し先の近くにスクールがあるかなぁ。
◆「スクール情報照会」で調べよう。各スクールのホームページにリンクもしている。
●JHFレポートのバックナンバーを読みたいんだけど。
◆大丈夫、「JHFレポートの閲覧」があります。ごゆっくり！
●大会のスケジュールを知りたいな。
◆「委員会のページ」の中のパラグライディング競技委員会とハンググライディング競技委員会のページで公認大会の日程などがわかる。「イベントカレンダー」にも簡単な情報あり。
●気になるあの人、ポイントシステム何位になったんだろう。
◆パラのJリーグ・SPS・XCリーグ、ハングのポイントシステムのランキングは、両方の競技委員会のページに載っている。「委員会のページ」から。
●日本選手権に参加したいので、機体のJHSC登録を確認したい。
◆「委員会のページ」の中の日本ハンググライディング安全性委員会のページに型式登録されたハンググライダー・パラグライダーのリストが載っている。SPS参加者も参考に。
●モーター付きのパラグライダーで飛んでみようかな。
◆それなら「委員会のページ」の補助動力委員会のページをまずチェック。動力付きパラ＆ハングの情報が山盛り。〈学科問題にチャレンジ〉もできる。
●技能証申請用紙をなくしちゃった！
◆ご心配なく。「各種申請用紙」からダウンロードできる。
●夏休みには遠くのエリアに行ってみたい。
◆「ニュースとインフォメーション」の中に〈ハング・パラグライディングエリア一覧〉があるので、ご利用を。
●教員証のナンバー、何番だったっけ。
◆「教員ナンバー検索」を見れば、すぐわかる。講習生に、あの人ホントに教員なのかしら……と検索されないよう精進してください。

◇

　という具合に、JHFホームページは中身がいっぱいなのだ。どんどん活用して、ハング・パラグライディングライフにたくさん色をつけよう。

＊今回紹介したホームページの内容は、4月初旬のものです。とにかく試行錯誤中なので、内容を予告なしに変更することもあります。予めご了承ください。

■委員会のページ

●PG競技委員会
　Jリーグ、SPS、XCリーグのランキング・登録用紙
　公認大会の予定と結果など
●HG競技委員会
　委員会からのお知らせ
　ポイントシステム、XCリーグのランキング・登録用紙
　公認大会の予定と結果
　日本人が参加している海外の大会情報
　ルールブックなど
　（気象情報のホームページにもリンクしている）
●補助動力委員会〈MPG TODAY〉
　委員会からのお知らせ
　委員会議事録
　日本選手権歴代ベストテン
　MPGの今後について伝言板など
　（MPG・PPG関連のホームページにもリンクしている）
●日本ハンググライディング安全性委員会（JHSC）
　JHSCについて
　型式登録機のリスト・登録用紙
　安全に関する報告など

体験講習会等の県連イベント情報も。

熊本県フライヤー連盟　カルデラエリアで、それぞれの楽しみ方を。

理事長　井藤　志暢

まず、飛ぶということ

パラグライダーで飛ぶということは非常に簡単である。何故なら飛ぶように作ってあるからである。飛ぶと言うことは、足が地面から離れた瞬間からをさす。それがたとえ50センチであろうが飛んだことに変わりはない。「なんだ50センチか!」と思うかもしれないが、飛んだ本人にとっては50センチであろうが、初めて空中に浮いた時は感動する。

これは、私が十数年、飛ぶことに関してアドバイスをしてきて感じたことですが、生まれて初めて自力で地面から足が離れて飛ぶ、または浮いたときは、高さ(高度)、飛んでる時間(秒数)に関係なく全ての人が感動します。いや、あまりにも簡単に自分を宙に浮かしてくれるのでびっくりするのかもしれません。そして必ず笑みがこぼれます。この笑みを見るため、見たいがためにインストラクターをやっているようなものです。

楽しみ方は人それぞれ

このスポーツは、他のスポーツのように基本的には勝った負けたのスポーツではないと思います。各人が自分なりに、高高度であれ低高度であれ、飛行時間が長かろうが短かろうが、宙に浮いていること、滑空していることが楽しいのです。楽しみ方は人それぞれで勝手であると思います。大きく言えばその人の生き方(人生)であり、他人がとやかく言うものではないと思います。私はイントラとして仕事を始めた頃は、みんながみんなソアリングをして、何時間も飛べるようにアドバイスすることがイントラの仕事だと思っていました。しかし、たくさんの人と接し話をしているうちに、それは単に一つのことであって、それが全ての人の目標ではないのではないかと感じ始めたのです。特に年輩の方のパラグライダーに対する考え方、生き方に影響され、私も少しずつ変わってきたように感じます。たとえば、ただエリアに来て風に吹かれていることが楽しい人もいれば、ただ人が飛んでいるのを眺めていることが楽しい人もいれば、ただエリアに来てフライヤーと話をすることが楽しい人もいれば……例をあげればあげた数だけ楽しみ方は出てきます。だから、ソアリングをしたい人はソアリングをすればいいし、クロカンをしたい人はクロカンをすればいいし、ただぶっ飛ぶことが楽しい人は、ぶっ飛べばいいと思います。たまに、ぶっ飛んだ人に対して見下したことを言ったり、誰も聞きもしないのに今日は何十キロ飛んだとか、何千メートル上がったとか何時間飛んで疲れたとか、吹聴する人がいますが、「だからなんなの?」と言いたくなるし、そういうフライヤーを見かけると淋しく思います。

本塚エリアはビギナーから楽しめ、眺望も良好。
上の大きな写真は、内輪山。うっすら外輪山も。

うまい人ってどんな人?

私はよく人から、「うまいですね」と言われます。ライズアップをすれば何時間もホールドできます。それがうまいとすれば、うまい人です。サーマルに乗って高度を上げることができます。それがうまいとすれば、うまい人です。遠くへ飛ぶことができます。それがうまいとすれば、うまい人です。でも私は、そういうことがうまいこととは思っていません。ただ単に馴れているだけだと思っています。パラグライダーは、右のブレイクコードを引けば右に曲がります。この右に引くことに『うまい』『へた』があるようには思えません。ブレイクコードを引くのに特別な技術もありませんし、テクニックもありません。ただ馴れているだけ。「うまい人」とは、単純に、怪我をしない人だと思います。

熊本県のエリア

熊本県と言えば阿蘇、俵山、大観峰、兜岩、本塚と、他県とは少し違った景観です。木がない、風が強い、広いテイクオフエリア、広いトップランディングエリアなどなど。グランドハンドリングに馴れる、リッジソアリングに馴れる、トップランディングに馴れる、サーマルに馴れる、馴れるには最高の場所だと思っています。是非一度、熊本阿蘇で馴れていただければと思います。

最後に。私は熊本県の理事長として、前記したことを念頭において4 年間普及活動をやってきました。4月より初代理事長の西本一弘氏にバトンタッチしますが、引き続き、熊本県フライヤー連盟をよろしくお願いします。

■熊本県フライヤー連盟への連絡は下記へ。
TEL. 096-389-5980(スパーク内)
FAX.096-389-5984

県連ニュース

■宮城県ハンググライディング連盟
[宮城県連通常総会開催のお知らせ]

春一番も吹き荒れ、私どもの宮城でも雪の隙間からふきのとうが芽生え、桜の便りももうそこまで届き、日一日と肌で春が感じられる季節となりました。県内のエリアは例年になく残雪が多く、オープンを待ち望む我々フライヤーにとって暖かい春の日差しだけがたよりです。

そんな中、今月は連盟主催の定例総会が開催されます。来る4月29日(土)宮城厚生年金スポーツセンターにて開催される運びとなりました。次号ではこの総会において選出された役員と新体制についてお知らせしたいと思います。　[川越敏明]

■栃木県ハング・パラグライディング連盟
[県連主催大会のお知らせ]

5月7日(日)みかも山エリア(東北道佐野インターチェンジの東側)にて栃木県連主催のパラグライダー・ハンググライダーの大会を行います。内容はダーツと指定地ランディング。参加資格はB級以上、参加費は未定です。ふるってご参加ください。
問い合わせ先:高橋隆男TEL.090-3245-9385
[谷古宇端子]

■東京都ハング・パラグライディング連盟
[新年度スケジュールが決まりました]

当連盟の2000年度行事日程が以下のように決まりました。

定期総会:5月17日、パラグライダー安全セミナー:5月27・28日、PG教員更新研修会:4月19日・12月3日、HG教員更新研修会:6月17日・9月27日・12月3日、東京都大会:9月2・3日(予定)、パラグライダー体験会:11月12日(予定)

◇当連盟の正会員資格

当連盟理事会で、JHFフライヤー会員制度導入にともなう都連正会員についての規定見直しはしないことに決定。これまでどおり会費3,000円を納めた人が正会員です。(4月1日から新年度になりました。会費未納の方、郵便振込でお納めください。)

◇定期総会

5月17日19時から渋谷勤労福祉会館第1洋室で。会員の皆さん、ぜひご参加を。当日入会の手続きもできます。

◇教員技能証更新時の推薦資格

昨年度から教員更新研修会の方法が変わりました。当連盟正会員で教員技能証更新の推薦が必要な方、ハング、パラそれぞれの更新研修会を受けてください。パラグライダー安全セミナーの参加者も推薦の対象になります。参加希望者は都連事務局に早めにご連絡を。

◇PG教員・助教員の更新研修会

昨年12月5日、茨城県エアパークCooエリアで、パラグライダー教員・助教員の更新研修会を行いました。午前はDHVテストレポートの解説、マヌーバビデオによるアクシデント時の機体挙動とリカバリー操作の解説、教員のディスカッションなど。午後は大型シミュレーターでレッグベルトを締め忘れた状態を全員が疑似体験。また、締め忘れて離陸してしまった人への無線誘導方法の説明もあり、概ね好評でした。今後も検討を重ね、よりよいものにしていきたいと考えています。

当連盟へのお問い合わせ等は、下記へ。
東京都ハング・パラグライディング連盟事務局　TEL.03-3728-8171　FAX.03-3728-8085　郵便局口座　00120-5-714670　口座名東京都ハングパラグライディング連盟

会費の入金を確認後、会員証を送ります。
[宮川一郎]

■奈良県フライヤー連盟
[登録費が変わります]

2000年より、JHFフライヤー会員登録が実施され、登録者には直接JHFレポートが配布される事になりました。これに伴って奈良県連盟の事業であったJHFレポートの配布に関し本年度をもって終了とし、来年度より登録費を現行の2000円から1000円に引き下げることになりました。更新手続きの際はご注意ください。

[JHFレポート配布サービス(有料)事業]

現在日本航空協会のフライヤー登録がまだ有効な方は、その登録が切れてJHFフライヤー会員登録に切り替わるまでは、JHFレポートが配布されません。そのため、県連盟として表記の事業を実施することになりました。ご希望の方は。連盟登録の際、JHFレポート配布料1000円を追加して、合計2000円を納入してください。　[岩井捷治]

理事活動報告

JHF理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしている。
この春の活動内容を各理事に報告してもらおう。

●会長　川添　喜郎

2月22日:東京地方簡易裁判所調停出席。3月1日:事務局で文書決済、クレーム等の対応。3日:事務局で諸決済、安全性委員会事務局と打ち合わせ。8日:事務局で事務局長打ち合わせ。17日:2000年パラグライディング日本選手権実行委員会との打ち合わせ、支払い決済。22日:JHF常任理事会、日本航空協会の本橋事務局長ほか幹部3名が来局し対応。24日:文書決済、三役打ち合わせ、広報業務連絡等。

●副会長　小林　朋子

2月25日～27日:CIVL総会出席。3月7日:(財)日本航空協会へCIVL報告。23日:JHF常任理事会。随時:システム設計者との打ち合わせ・システム機材業者との打ち合わせ。

●常任理事　朝日　和博

財務担当の1年は、年度頭の前年度決算業務に始まります。その実績に応じ補正予算組作業が入り、6月定例総会後は次年度事業計画と予算編成に入ります。会員からお預かりしている貴重な財産を有効に活用するため、関係各位には詳細なところまで手間をかけていただいています。

フライヤー登録移管に伴い特別会計を設定しましたが、2000年度からは一般会計の中で正しく運用されるよう努力します。

●常任理事　関谷　暢人

3月1日:航空会館での補助動力委員会、マイクロライトフットランチド部会との協調会議に出席。2団体が意見を述べ合ったのは有意義。一般愛好者の立場で物事を進めることを確認した。8日:事務局で理事会事務処理確認、常任理事会・総会準備打ち合わせ。22日:JHF常任理事会、総会準備打ち合わせ。準備は円滑になってきたが、まだまだフォームが確立していない。6月総会はもれのないプログラムで臨みたい。

●常任理事　横尾　和彦

1月21日:郵政省関東電気通信管理局の電波管理部監視第一課から、アマ無線の不正使用状況について問い合せがあり対応。2月7日:スポーツ振興基金申請。15日:航空協会助成金申請書作成・提出。21日:スポーツ振興基金訪問。3月23日:郵政省郵務部監査。

●理事　岩間　雅彦

1月末の教習検定委員会に出席。主に教員更新時の再研修について話し合いました。また、ハンググライディング教本制作の準備を進めています。

●理事　田中　美由喜

2000年度普及事業として、9月～10月に第2回のセイフティセミナーを開催の予定で、準備にかかっています。内容は、パラグライディング教員・助教員対象のセイフティフライトの指導です。ただいま、スタッフ＆講師募集中。

●理事　星野　納

3月1日、航空会館での補助動力委員会、マイクロライト協会フットランチド部会との協調会議に出席。今後どういう話し合いをしていけばいいか方向性をつかむことができたと思います。この会議の様子は補助動力委員会のホームページに掲載しています。

●理事　松田　保子

2月4日、広報出版局の会議。JHFレポート一新(今号)のための編集打ち合わせでは、あれもやりたい、これもしたいと、アイデア多数で盛り上がった。また、ホームページ充実をめざして試行錯誤の真っ最中。ハンググライディング教本の発行も準備中。

●理事　松永　文也

文部省主催のスポーツコーチサミットに出席してきました。スポーツ振興を目指すさまざまな連盟の代表が出席していて、なかなか興味深い会議でした。これからの時代、余暇をより良く生きるためのレジャースポーツというものは、ますます重要視されていくだろうという感想を得ました。

委員会の動き

1998年度・1999年度と活動してきたJHFの各委員は3月31日に任期を終えた。それぞれの委員長がこの2年間の動きを振り返る。

PG競技委員会　委員長　岡　良樹

PG競技委員会この2年

この2年間で最も大きなことと言えば、SPSの導入であると思います。SPSができるまでは、競技の頂点としてのポイントシステム以外の大会といえばローカル色豊かな、お祭り的なものが殆どで、全国レベルでランキングをつけるものはない状態でした。また、ポイントシステム大会はとてもレベルが高く、サンデーフライヤーにはとても敷居が高く、気軽に参加できるレベルではありません。大会とかランキングとかに興味があっても二の足を踏んでいたフライヤーにシリーズ戦競技に参加する道を開いたのがSPSでした。そこでは、ただ戦いにのみ焦点を絞るのではなく、「全国のフライヤーとの交流、同じ空域を飛んだという連帯感、飛び以外でも楽しめる」をモットーとして開催していただくように主催者の方にはお願いし、ある程度は目的の達成ができたのではと思っています。

やっと種火がついた状態のSPSです。今後とも、各地の主催者を含め業界関係者及びフライヤーの連携プレーで大きな火となるようにしていきたいと思っています。

また、今後の委員会に期待することは、もっと一般の人から見て楽しくわかりやすい競技を創作すること。そうすればメディアを通じて一般にアピールでき、その結果このスポーツの競技人口が増えるよう導けるのではないかと思います。

HG競技委員会　委員長　大澤　豊

HG競技委員会では、2年前にルールブックの見直し・委員会ホームページの運用開始を計画にあげ、多くのご協力を得て実現したほか、以下の事業を行いました。

□ルールブック改正

1999年と2000年の2回にわたり、ハンググライディングルールブックを改訂しました。

□公認審査

1999年は、ポイント大会11戦、公認大会７戦の公認審査をしました。

□世界選手権への選手派遣

1999年夏、イタリアのモンテクッコで開催された第12回ハンググライディング世界選手権に、クラス1:6名、クラス2:1名、チームリーダー、アシスタントの総勢9名を派遣しました。

□日本選手権等への公式審判員派遣

大会の円滑な運営を目的として、1999年3月の日本選手権（広島県神の倉エリア）および1999年4月のプレ日本選手権（岩手県遠野エリア）に公式審判員として委員を派遣しました。

□競技委員会ホームページの管理・運営

競技委員会としては、フライヤーへ公認された大会のスケジュールおよびエントリー用紙、開催要項の入手、公認された大会の結果発表、ルールブックの常時掲載、国際大会の情報提供、主要大会の結果を速報発表、委員会活動のお知らせを目的に、HG競技委員会独自のホームページを管理、運営しています。内容更新時には、メールにて登録フライヤーに通知しています。

教習検定委員会　委員長　島野 広幸

委員任期もいよいよ終盤です。様々な新しいことが始まるこの桜の季節に、委員会のメンバーも新しくなるわけです。

この2年間の委員会活動を振返ってみると、JHF教員検定会の事業には、タンデム技能証の新たな実施、助教員の更新資料の作成、パラグライディング教本の内容見直しなどがありました。これらの事業展開にあたり、委員以外の多くの方々にご協力をいただいたことに深く感謝します。

作業を行う時には、いつも理想のイメージを持ち、それに少しづつ近づけようとしてきましたが、まだまだ不完全な部分も多く理想の形とは言えません。さらなるステップアップを今後の委員会に期待します。たとえば、いつも徹底しきれないのは、理想的教員とはどのような内容を指すのかです。そして、それに適合する教員の選出方法及び養成方法、またそれに要する費用や時間はどの程度までが許容範囲なのかということです。数年間の委員会活動を通じても、ついに結論の出なかった部分であり、今後もそう簡単には答が出ないと思います。それでも時代にマッチした柔軟な考えを持ちながら最善の策を作り上げなくてはなりません。

この委員会の仕事は、ある意味ではスカイスポーツ界レベルの底上げにあり、トップレベルを上げていくものではなかったように思います。そこで委員会の中では、この言葉が適当かどうかわかりませんが「幅広いサービス」を心がけて来ました。講習会開催を検討する場合も一人でも多く、少しでも多くの地域に情報（技術や知識）を伝えられるような配慮をしました。これを実行するには時間も費用も労力も必要で、JHF予算や委員にかなりの負担がかかることもありましたが、ある程度の結果は残しているはずです。このような活動を通じての努力がいつも十分な成果を生み出すとは限りませんでしたが、その都度数々の励ましや批判や意見をいただきました。その中には直接事業に関係なくても「なるほどそれはそうだ」と感心するような内容もいっぱいあり、我々自身やJHFに取り入れられたことも事業展開における貴重な二次的産物でした。

JHFでは1人でも多くのフライヤーの発展的意見を求めています。

補助動力委員会　委員長　山崎　勇光

補助動力委員会では、この2年間、補助動力付パラグライダー・ハングライダーが「空の暴走族」とならないよう、モラルの提唱をフライト手帳、日本選手権等を通じて行ってまいりました。少しずつではありますが、効果が現れてきたように思います。しかしまだ多くの問題を抱えているのも現実です。来年度もさらに補助動力が安全性を大衆に認知され、健全なスカイスポーツとして、誰もが楽しみ、空を愛する人たちの糧となるよう努力してまいります。皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

1998年・1999年度補助動力委員会活動実績

日本選手権開催（群馬県／千葉県）
フライト手帳発行
MPG問題集発行
補助動力学科試験実施
補助動力技能証規定改定
補助動力委員会開催

制度委員会　委員長　小林　秀彰

現在のJHFの組織運営上でもっとも重要な役割を果たしているのは言うまでもなく総会です。しかし、総会で論議されることは予算、決算、定款の改正などの重要な事項のみで、細かい組織の運用についてはすべて理事会が行うようになっています。我々委員会は総会直属ではなく、理事会の諮問機関と位置付けられ、理事会の決定に従い、それぞれの業務を行っています。

今期、制度委員会は諮問機関という枠を乗り越え、委員会からの提案も行っていこうと考え活動してきましたが、理事会とのコミュニケーションがうまく行かず空振りに終わってしまいました。しかしながら、委員会としてはかなりの情報の蓄積ができましたので、これを次期委員会に是非引き継ぎたいと考えております。

制度委員会では諮問機関という枠を越えて「フライヤーのための組織運営が行える制度を考える」ことを目的に、この2年間下記の項目に取り組んできました。

①2000年の会費制度が確立した場合の都道府県連盟規約の検討について

フライヤー会員制度の新設にともない都道府県連盟の定款（規約）の見直しが必要になります。そこで一つの案として制度委員会案を作成する予定でしたが3月末までの委員会任期中に、総会での統一見解が出ませんでしたので次期へ引継ぎします。

②トーイング技能証について

現在の日本の状況ではエアロトーイングについては法律の問題が発生します。ウインチトーイングについては法律上の問題はないと考えられますが、現状では日本において必要が認められないとの結論に達しま

した。

③セーフティーアワード（安全フライト表彰）の件

日本に合った形で導入を検討し、素案を作成しましたので、次期へ引継ぎします。

④クロスカントリー技能証の見直し

ハンググライダー関係者からの聞き取り調査によりますと、おおむね3kmという距離がハングにとっては短すぎるのではないかとの声も聞かれました。継続した調査、検討が必要ですので次年度へ引継ぎします。

⑤規程集作成について

現行のJHF技能証規程を含む諸規程が1冊にまとめられていません。用語、表現の統一、形式の統一も考え、JHF規程集案を作成しました。構成は第1章が組織、第2章が技能証規程というものです。あとは理事会の審議を待つ状態です。

選挙管理委員会　委員長　長谷川　光雄

JHFが社団法人となり、理事・監事の選挙が行われることになって、選挙管理委員会は発足しました。初めての選挙は1997年1月31日に公示、3月25日に投票が行われました。理事は定数内のため無投票で9名が当選。監事は投票の結果2名が当選。この11名の役員の任期が1999年3月31日で満了となるため、第2 期選挙管理委員5 名が、前年秋に委嘱されました。1月11日に選挙公示、3月17日のJHF総会で投票が行われ、理事11名・監事2名が選出されました。

選挙管理委員は、多数の文書の作成、必要書類の配布、提出書類の確認等、膨大な仕事を5人でこなさなければならず、全員忙しく動きまわるのが常でした。振返れば厄介なことも何件かありましたが、選挙管理委員としての私の理念である「厳正、中立、公平」に照らし無事解決してきました。

当委員会では、選挙の運営上気付いた事項や、正会員の方々の質問や要望を踏まえ、見直すべきことを討議してきました。そしてこの度「役員選挙並びに選挙管理委員会に関する細則の改定案」を作成しました。制度委員会を通じ理事会で検討していただき、総会に提出していただければと考えています。

今後、選挙管理委員が交代しても、選挙管理が「厳正、中立、公平」に行われることを願っています。最後に、これまで一丸となって活動していただいた選挙管理委員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

（選挙管理委員会のみ任期が6月総会まで延びました）

理事会ダイジェスト

◆2月24日理事会

2000年2月24日（木）13時30分～17時　JHF事務局会議室　出席：川添喜郎・朝日和博・関谷暢人・横尾和彦・岩間雅彦・田中美由喜・星野納・松田保子各理事、宮川雅博監事　欠席：小林朋子（CIVLに出席）・松永文也・渡邉敏久各理事、坂本三津也監事　議長：関谷暢人

■「役員選挙ならびに選挙管理委員会に関する細則」について審議

制度委員会から出された「役員選挙～細則」改定案について審議。案の一部を修正し、細則を規約に変更したうえで、規約として文を整えることを条件に、賛成7で可決。この規約案は2000年度総会に上程される。総会で承認されると、選挙管理委員会が総会直属になるほか、不在者投票や信任投票、異議申し立ての決まりが新設されることになる。

■スクール登録規程（案）について審議

川添から出された（社）JHFスクール登録規程の案について審議。案の一部を修正したものを賛成6、棄権1で可決。この規程は、JHF教員の運営するハング・パラグライディングスクールを後援するためのもの。登録したスクールは、各種方面への紹介及び情報提供、JHFフライヤー会員登録受付代行業務の申請資格などの特典を受けることができる。登録費は、法人運営スクールのA登録が12,000円、個人事業主運営スクールのB登録が9,000円、非営利運営スクールのC登録が6,000円。登録期間は最大2年で、更新できる。この規程は2000年4月1日に施行。

■委員会設置規程の見直しについて審議

川添より（社）JHF委員会設置規程の見直しについて提案があり、これを審議。改善点1「安全性委員会の制度上の所属の明確化」については今後の協議事項とすることに決定。改善点2「委員の兼任を避ける」については、規程に「委員の兼任は原則として認めない」という文を入れる原案に賛成5、その文を入れないという対案に賛成1、棄権1で、原案を可決。また、各委員会の定員については、原案修正案に賛成3、対案に賛成4＋1（議長票）で、対案を可決。各委員会の定員は、以下のとおり。PG競技委員会5名、HG競技委員会5名、教習検定委員会6名、制度委員会5名、補助動力委員会5名。

■都道府県連盟登録費の回付方法について審議

フライヤー会員登録費を都道府県連盟に回付する配分方法案について、朝日より出された案を審議。まず、回付金という表現をやめ、都道府県連盟事業費とすることを決定。事業費総額を登録数×650円とし、一律10万円の定額を配分し残額を各都道府県の登録数に応じて比例配分するという案を、賛成6、棄権1で可決した。なお、1999年度は1～3月分のフライヤー登録収入しかないので、一律3万円の定額を配分し、残りの額を登録数に応じて比例配分する。この配分方法は3月総会で承認を得たうえで実施に移す。

■2000年度補助動力日本選手権開催地について

2000年度JHF補助動力付パラグライディング日本選手権の開催地として、富山県フライヤー連盟から立候補があった。賛成7で、これを承認。10月21日（土）・22日（日）に富山県黒部市の黒部川河川公園で開催。

◆3月27日理事会

2000年3月27日（月）13時30分～18時　JHF事務局会議室　出席：川添喜郎・小林朋子・朝日和博・横尾和彦・岩間雅彦・田中美由喜・星野納・松田保子・松永文也各理事、宮川雅博監事　欠席：関谷暢人・渡邉敏久各理事、坂本三津也監事　議長：岩間雅彦

■3月通常総会議案の決定について審議

3月28日開催の通常総会議案について確認。朝日より提出された1999年度補正予算案を総会にかけることについて審議。賛成8で可決。また、1999年度分都道府県連盟事業費として配分する金額に予備費分を加えるか否かについて審議。加える案に賛成が2、加えずに次年度への繰越金とする案に賛成が6で、予備費を加えず配分することを可決。正会員の総会参加の交通費については、7割支給に賛成2、全額支給に賛成6で、全額支給案を可決。朝日から出された、都道府県連盟事業費の配分金額案について審議し、賛成7、反対1で案を可決。

■技能証と学科合格証の新方式について審議

1月15日理事会で、学科検定員制度の廃止が決まったことを受け、事務局業務担当の小林から、学科検定会実施の流れについて提案があり、4月理事会で継続審議とすることを決定。また、学科合格証の申請手数料を廃止し規程を変更する案について審議。賛成6、棄権1でこれを可決。これまでは、問題送付や合格証発行などの経費にあてるため1,000円を受け取っていた。

■JHF規程集・第2章技能証規程について

制度委員会から提出された規程集の案について、内容と文字の最終的な校正を制度委員会の小林秀彰氏・沼田敦子氏に依頼することを川添が提案し、そのように決定。6月の規程集発行をめざして作業を進める。

■補助動力付PG日本選手権規程の改定について

補助動力委員会担当の星野から、補助動力付パラグライディング日本選手権規程の改訂案が出されたが、4月理事会に審議することに決定。

■女子HG世界選手権への参加について審議

HG競技委員会から、第7回女子ハンググライディング世界選手権に日本チームが参加することについて承認依頼があり、賛成7、棄権1で承認。承認された日本チームは、香川祥子（チームリーダー兼任）・井手有生・陶山園恵・高橋恵里子・谷古宇瑞子各選手と、中村庸十アシスタントチームリーダーの6名。

■学生連盟からの要望について審議

日本学生フライヤー連盟より、ハンググライディング学生リーグ（仮称）への後援要望があり、賛成8で可決。後援することに決まった。年に数回開かれている学生のHG大会を、リーグ戦にする計画。

●PGアジア選手権準備委員会設立について協議

パラグライディングアジア選手権の開催について検討する臨時委員会を設置する案について、協議。

◆スポーツコーチサミットについて報告

PG＆HG競技委員会担当の松永より、「スポーツコーチ国内サミット」について報告書が提出された。この会議は2月28日・29日に開催され、松永が出席した。

◆広報出版局より報告

広報出版局より活動報告書が提出された。また、JHFレポートに都道府県連盟のニュースを同封してフライヤー会員に送付する計画について説明があった。都道府県連盟の要望を調査したうえで実施に移す予定。

この「理事会ダイジェスト」は、理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをまとめたものです（審議事項はすべて掲載）。議事録は各正会員（都道府県連盟）に送付されますので、必要な方は各正会員にご連絡ください。

CIVL報告

セイフティフライトは世界の願い

2月25日から27日までの3日間、スペインのバルセロナ郊外、シチェスという町で、2000年のCIVL（国際ハンググライディング委員会）総会が開かれ、22ヶ国が参加。日本からはJHFの小林朋子副会長が、代表委員として出席した。

CIVLは、ハング・パラグライディングの国際レベルの問題を話し合うところ。通常は年に一度、2月か3月に開かれている。今回の会議ではどんなことが検討されたのか、小林委員に聞いた。

■CIVL総会はいつも3日間ですが、朝から晩までずっと会議ばかりですか。

小林　1日目の午前10時から3日目の午後3時までびっしり会議で、かなりハードでした。3日間のうち半分以上はワーキンググループに分かれて、それぞれのテーマについて議論しました。

■小林さんが参加したワーキンググループでは、何がテーマだったんですか。

小林　「パラグライディング競技会」です。主に議論されたのは、世界選手権の出場者数を限定すること、世界選手権のクラスを二つにすることでした。

出場者を限定するというのは、前回の選手が240人にもなったので危険性が指摘され、空中の混雑と技量が不十分なパイロットの参加を避けるため、人数制限をしようということです。投票で国別に出場者数を限定すると決まって、最大150人が適当だということになったのですが、提案された割り当て方式だと、日本を含む非ヨーロッパの国が不利になります。それで、日本からそれは不公平な方式だと指摘しました。その結果、新しい方式*で各国の人数枠を計算することになりました。

世界選手権のクラスの話は、パラグライダーの安全性に応じた二つのクラスを世界選手権に設けてはどうかという提案があったのです。DHV2-3の安全性を備えたシリアルクラスと、安全証明書等があればプロトタイプでも参加できるオープンクラスの二つです。この提案に対して活発な意見交換がありました。世界一を決めるのだから最高性能の機材で戦うべきでオープンだけでいいとか、プロトタイプを使えない国も同じ土俵で戦えるからシリアルだけにすべきだとか……。結局、投票で2クラスで行う案は否決され、オープンクラスだけで開催することになりました。

■ほかにどんなことが決まったのですか。

小林　まず、2002年のスケジュールです。パラグライディングヨーロッパ選手権はスロベニアで開催することになりました。ハンググライディングヨーロッパ選手権はスロベニアで6〜7月。女子ハンググライディング世界選手権はアメリカのシェランです。女子世界選手権は参加者が減少しているので、将来はパラと同じように男子と一緒の大会にすることも検討する予定です。それから、ハングのクラス2世界選手権が、シェランで女子の選手権と同時に開催されます。

あとは、スポーティングコードのセクション7がいろいろ変更になりました。主な変更点は、大会の成立規定で最低4本のタスク成立から3本に減ったこと、ブリーフィングの言語が英語のみになったこと、大会運営者にタスク設定のアドバイスをするタスクアドバイザリーコミッティーが定義されたことなどです。

■今回、会議全体を通して感じられたムードというか、各国委員が向いている方向というのは……。

小林　安全性です。どんなことでも「これが安全にできるか」というのが一番先にあって、そこから議論がスタートしていました。前回、前々回と、ハング・パラグライディングの普及のためにメディアにアピールすることが強く言われましたが、それも安全であることが条件である、と。とにかく皆さん安全性を意識して意見を出していました。

◆CIVLの報告は、JHFのホームページで見ることができます。詳しく知りたい人は…http://jhf.skysports.or.jp/でご覧ください。

＊提案された割り当て方式

ワールドパイロットランキングスキーム（WPRS）/FAIパイロットランキングの1位〜50位に何人のパイロットが入っているか国別の数字を出し、それに従って世界選手権の国別選手数を割り当てるもの。このWPRSでは、カテゴリー1競技会の結果（世界選手権・ヨーロッパ選手権の順位）が重視されている。日本が好成績を残した昨年の世界選手権は不成立だったため、その成績がWPRSに反映されていない。CIVLワーキンググループの調査によると、2月末の時点で日本の順位は12位、出場枠は男性3人、女性2人に制限されてしまう計算になる。

（小林朋子委員は、この問題について日本の意見を強く出すためもあり、CIVL役員会に参加することになった。1年間の任期でCIVL副会長を務める。他3名の副会長は、アメリカ・フィンランド・オーストラリアの委員。会長のBurghelle 氏はフランス人。）

補助動力委員会から

MPG・PPG 協調会議について

すでにJHF補助動力委員会のホームページに掲載してありますが、3月1日、新橋の航空会館で、モーターパラグライディング（MPG）・パワードパラグライディング（PPG）協調会議を開催。MPG・PPG間に山積する諸問題を話し合うため、JHF補助動力委員会と、JMLフットランチド部会の関係役員が、ほぼ全員集まりました。今回が実質一回目の会議のため、具体的な成果を報告するには至りませんが、引き続き二回、三回と会議を継続していきます。

今回は事前に双方の見解を「比較表」にまとめ会議前に配布しておいたため、「今後はどういう話し合いを重ねていけばいいか」という方向性は把握できました。なお、この会議の資料は膨大にあり、本誌面には掲載できません。補助動力委員会ホームページをご覧ください。

http://www.246.ne.jp/~osa-mpg

アクシデントレポート

事故は多くを奪う。心身の自由、時間、仕事、時には命まで。「自分だけは大丈夫」という陥穽にはまらないために、悲しい事故を繰り返さないために、このレポートを役立ててほしい。

以下は、日本ハンググライディング安全性委員会による事故報告だ。昨年末から短期間に3人ものフライヤーが亡くなった。いったい何が起きたのか。その疑問に彼らはもう答えることができない。しかし、私たちはこの疑問を持ち続けるべきなのだ。安易に忘れ去ってはならない。

報告1：モーターパラグライダー

事故発生日時：1999年12月31日、16時25分頃
場所：福岡県糸島郡にぎの浜　操縦者：男性（B級技能証）
経過：砂浜から北向きにテイクオフ。順調に直線飛行を行う。高度を上げ、海抜30m付近で海側に左旋回を行った。その際、失速に入りスピンして、水深1.6m程度の海中に落下した。ハーネスをはずすことができず水死したと見られる。10分ほどで岸まで救助されたが、呼吸停止、心停止状態であった。

報告2：ハンググライダー

事故発生日時：2000年1月23日、11時5分頃
場所：茨城県八郷町板敷エリア　操縦者：67歳の男性（XCパイロット技能証）
経過：朝のうち北風で、テイクオフはフォローの状態。11時近くになって風が南西に変わり、テイクオフ可能な条件となる。

事故の数分前に隣のメインランチャー台（3台のうち中央の台）からテイクオフした他のフライヤーがサーマルをつかみ上昇し始めたのを見て、当該フライヤーもテイクオフすべく機体を持って東のランチャー台に上がった。周囲にいた目撃者によると当該フライヤーはハングチェック（カラビナにスイングラインが正しくかかっているか点検すること）を誰にも頼まず、黙ってランチャー台に上がったらしい。その時点では東のランチャー台の上に誰も居合わせず、当該フライヤーはテイクオフする旨のコールもしなかったようである。

そのため、当該フライヤーのテイクオフの最初から最後までを見た者はいない。メインのランチャー台の上にいた他のフライヤーが、東のランチャー台から走り出す足音を聞いて振り向いたところ、当該フライヤーがランチャー台の中程を走っているのが目に入り、同時にカラビナがかかっていないのに気付いて「手を離せ！」と怒鳴った。しかし間に合わず、ランチャー台からテイクオフしてしまった。

当該フライヤーが倒れていた現場は、雑木林の斜面で、ランチャー台の先端から30mほど下ったところ。その場所から斜面を8～10m上がったところの樹木は、根元付近の樹皮がめくれていた。また、その2mほど脇に、あごひものプラスチックの留め金とシェルの左頬の部分が破損したヘルメットが落ちていた。機体は本人の倒れていた位置からさらに10mほど斜面を下ったあたりの、樹木の上にひっかかっていた。樹皮のめくれた木の周囲には、他にも雑木がたくさんあるが、それらには特に乱れがなかった。

報告3：パラグライダー

事故発生日時：2000年2月13日、13時26分頃
場所：和歌山県那賀郡紀の川フライトエリア　操縦者：58歳の男性（パイロット技能証を4年前に取得）、7～8年の経験を持ち、月に10回ぐらいフライトしていた。
経過：当日は高気圧に覆われ朝から晴れていた。10時頃には弱いサーマルが出始め、初心者のフライトも可能になる。12時を過ぎるとサーマルブローがやや強くなり、ほとんどの初心者はウェイティングの状態になる。パラグライダー・ハンググライダーの中上級者は次々とテイクオフしていた。

当該フライヤーのテイクオフ時間は定かではないが、12時から13時の間と考えられる。この時点での寺山テイクオフは、北北西の風3～4m/s。

当該フライヤーがしばらく飛行していたことは確認されている。この時、パラ、ハングともに40～50機は滞空していた。広い範囲で上昇可能な環境にあり、当該フライヤーがランディング場からの高度1000mでゴルフ場の南寄りを単独で飛行していたことが確認されている。

目撃者が竜門テイクオフからゴルフ場方面を見ると、竜門テイクオフとほぼ同高度の位置から、スピンしながら沈下していく機体があった。13時20分頃。ネガティブスピン（回転軸が機体の中に入り、緩やかな沈下を伴い機体が回り出す現象）に入り、しばらくして回復しタックに入る。そこからスパイラルに入ってしまい、バーチカルスピン（回転軸が機体と人間との間に入り、真下方向に回転する現象）に移行し、墜落した。

事故発生時の寺山テイクオフの風は、5～6m/sであった。どのようにしてスピンに陥ったかの判断はつかない。目撃者なし。

事故が起きたら必ず報告を

万一、自分のまわりで事故が起きたら、自分自身が事故を起こしたら、あなたはどうしますか。同様の事故がどこかでまた繰り返されないように、ぜひ事故報告をしてください。JHF事務局TEL.03-5840-8311、FAX.03-5840-8312まで。

●日本ハンググライディング安全性委員会（JHSC）議事録

■1999年度第9回委員会

日時：2000年2月17日（木）13時30分～17時
場所：JHF事務局会議室　出席委員：斎藤紀、岡良樹、下山進、泉秀樹、幸路尚文 オブザーバー：鈴木康之　委任状：阿部郁重、小宮國男

◇型式登録審査
〈パラグライダー　新規登録〉
・NOVA式KRYPTON21型（合格：PI-747）
・NOVA式KRYPTON23型（合格：PI-748）
・NOVA式KRYPTON25型（合格：PI-749）

◇定例委員会
・和歌山県で発生したパラグライダーの死亡事故について、現地調査に赴いた幸路委員から報告書の提出があり、補足説明が行われた。
・JHFのホームページに掲載する事故概要の内容が検討された。

●JHSCからお知らせ

JHFのホームページで、JHSCに型式登録されたハンググライダー・パラグライダーのリストを見ることができます。「日本選手権に出るので登録を確認したい」人も、「SPSに参加したいから登録機を調べたい」人も、お気軽に。

http:jhf.skysports.or.jp/　トップページからメニューを開き、委員会のページへ。

@sky

さあ、さあ、寄ってらっしゃい、見てらっしゃい。ニュースあり、大会レポートあり、カレンダーあり、空の情報を山盛りにしたページが始まります。
何かに行き詰まったら〈お題はなあに?〉でリフレッシュ。肩の力を抜いて「そうそう、こんなことあるよねえ」と楽しんでください。もちろん寄稿大歓迎です!
〈パラグライダー今昔物語〉は、古株フライヤーなら、みんな「あの頃」にタイムトリップしそう。まず、ご一読!

ひとくちニュース

■2000年PG・HG日本選手権開催

4月12日から16日まで、茨城県のエアパークCooで「2000パラグライディング日本選手権つくば」を開催。結果は……次号で詳細報告。乞う、ご期待。今年こそ好コンディションに恵まれますように!

4月30日から5月5日まで開催の「ハンググライディング日本選手権大会in岩手」は、岩手県遠野エリアがその舞台。山谷川と高清水、どちらかからテイクオフし、遠野盆地を囲むように設定されたパイロンをまわる。民話のふるさとで最後に笑うのは誰か。これまた次号にご期待ください。

■女子HG世界選手権に日本チーム

ギリシャで6月16日から24日まで開かれる「第7回女子ハンググライディング世界選手権」に日本チームが参加する。チームの顔ぶれは、チームリーダーも務める香川祥子、井手有生、陶山園恵、高橋恵里子、谷古宇瑞子各選手と、中村庸十アシスタントチームリーダーの6名。香川さんと谷古宇さん以外の3選手は世界選手権初出場。いつもの実力を発揮できるよう祈ります。

■女性パイロットフォーラム好評

2月26日、東京都大崎で「女性パイロットフォーラム」が開かれた。日本滑空協会の専門部会であるクロスカントリー・競技飛行委員会が企画運営したもの。グライダーは、記録飛行やアクロバットで知られる森中玲子さん、ハンググライダーは郷田摩純さん、パラグライダーは田中美由喜さんがパネリストとして参加。頑張る女性パイロットの声に、出席者は深く頷いていた。

お題はなあに?

お楽しみ新シリーズの始まり始まり〜。みんなの大空体験を一挙公開!今回のお題は、初飛行・初高高度だよ。

◇特別待遇

今だから話してしまうと実は僕、スクールの初日にパラグライダーの立ち上げの仕方を教わった後、知り合いのインストラクターにそそのかされて、皆が昼休みでいなくなってる隙に初フライトを済ませて、何食わぬ顔をして午後の講習を受けました。

ペンネーム:絶対匿名希望!

◇初恋は実らない?

1976年の「ポパイ」創刊号。ハンググライダーのグラビアに目が釘付けに。さっそく某所で2泊3日の講習会を受け、岩ごろごろのスキー場で初フライト。地面スレスレでたった5秒ぐらいだったが、自分自身の体が引力の鎖を断ち切って滑空しました。

これが私のスカイスポーツ人生を決定した瞬間でしたが、その時の講習生の中に、無名時代のもんたよしのりさんがいて、翌年「ダンシングオールナイト」が大ヒットして驚いたものです。

1982年にハングと別れることにしましたが、7年後に新しい出会い。

「ゆったりしたスピードが、水に包まれているような心地よい気持ちにさせてくれる。」

初恋の人(ハンググライダー)ではないけれど、もう10年もつれそった翼、それがパラグライダーです。

ペンネーム:パラの連れ合い

◇恐さ余って憎さ百倍

今からン年前、花の女子大生となり、パラグライダーサークルに入った。待ちに待った初高高度の前日、緊張し眠れずにいたら1本の電話が。それはサークルの先輩からだった。「お前、知ってるか……」、彼は自分のフライト恐怖体験を話し始めた。お陰で翌日、高高度テイクオフに立った私は足がすくんだ。「やめてっ〜」と叫びながらテイクオフ。気付いたら、緊張の糸が切れ大笑いしながら飛んでいた。その笑い声はランディング場まで聞こえたらしい。後日、その先輩のビールにタバスコ1本を入れてお返ししてあげた。今となっては、いい思い出?

ペンネーム:ぱんち猫七

◇最初はよかったんだけど

昨秋、田畑の枯れた時(ここがポイント)、気合い十分で初高高度の飛行準備。ところがここに問題が……飛行コースがきちんと頭に入っていなかった。飛び出したはいいが、ターンする方向を間違ったが最後、高度が下がる下がる。気がついた時には無線に「はぁ、はぁ…」と言う怪しげな吐息が……どうもイントラが私の機体を追って枯れた田畑をまっしぐらに走っていたらしい。私といえば、よく考えたら正規のランディング場に帰れるわけないのに、なんと地上5メートルで「その辺に降りていいから」と言われるまでずっと、正規ランディングに降りようと考えていたのでした。結局降りたのは300mも離れた農道ときたから、参った参った。でも、これから初飛びする方々、間違わないでください!　みんながみんなこんなことをしているわけではないから。大丈夫!降りる場所が違えど、私でも無事に飛べたのだから……

ペンネーム:気合いは十分

■次回のお題は「初ソアリング」

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり!

Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp
FAX.03-5840-8312
「JHFレポートお題はなあに係」まで。
次回の原稿締切は5月17日です。なお、文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。

パラグライダー今昔物語

栗山 公秀

第一話　AIRRON

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、日本のパラグライディング史に名を残す翼、再登場。

日本にパラグライダーが紹介されたのは1986年頃といわれていますが、その頃のパラグライディング界の牽引役と言えるファルホーク社の、市販パラグライダー第1号が、今回紹介するAIRRONです。筆者の初めてのパラグライダーでもあります。当時、私のスクールはファルホークを中心に（というよりファルホークしか知らなかった？）取扱っていて、グライダーはAIRRONしか選択肢はありませんでした。

スカイダイビング用のスクエアパラシュートを使用してのフライトから始まったという歴史から、AIRRONも他メーカーの機体と同様に、ダイビング用パラシュートの面影を色濃く残したデザインです。前縁に大きく口を開けたエアインテーク（人がひとり入れた）、長方形のキャノピーはずっしり重いポリエステル製、2本ライザーから伸びるラインは平織りのポリエステルライン（後にきしめんラインと揶揄された）という、今では想像を絶するスペックですが、当時のグライダーはどれもこんなもんでした。初期のAIRRONなどは、翼上面に「たたみやすいように」と、まとめて縛れるテープが縫い付けてあって、こんなもん空気抵抗以外の何物でもないはずですが、そんなものを平気で取り付けちゃうあたり「パラグライダーなんてこんなもん」という考えが見え隠れしている気がします。

当時のパラグライダーのフライト風景を紹介しましょう。山を上る→テイクオフする→ランディングする→山を上る……（体力が続く限り繰り返し）。この無限ループこそ、当時の僕らのフライトスタイルそのものでした。ソアリングなんて概念などみじんもなく、テイクオフからランディングまで一直線の滑空が全てでした。ターンなんかしないよ。高度がもったいないもん。長野県木島平エリアでの山頂フライト（高度差約650m）で約10分飛べると、もう感激したものです。

そういえば、その頃のフライトエリアの殆どは、シーズンオフのスキー場を借用するものが主流でした。僕らもちっぽけなスキー場で細々と飛んでました。

しかし夏のスキー場って、超非日常的自然空間。ただ雲を眺めてぼーっとしてるだけでも楽しいものでしたね（買い出しには苦労するけどね）。

ハーネスはすこぶるシンプル。ソアリングしませんからバリオも持ちません。レスキューパラシュートなんて笑い話でした。「パラシュートがパラシュート持ってどうするんだい?」

1987年8月に第1回ジャパンカップが、長野県の五竜と岩岳で開催されましたが、タスクは何と！セットタイム＆ターゲットとスラローム＆ターゲット（ゲレンデにポールを立ててスラロームしながら滑空する…だったかな）。何しろ当時のパラはソアリングできるような代物ではなかったので、どの大会もセットタイムかデュレーションとターゲットのコンビネーションタスクだったんですね。

栗山公秀（くりやままさひで）
初フライトは1987年7月、それ以来パラにはまる。コンペにも参加していたが今は月1～2日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホームエリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。

デビルズダイクを訪ねて

八幡 信雄

先日私はイギリス老舗スクール「スカイシステム」とスイスのアイガーユングフラウにある観光フライト地を訪ねる一人旅をしました。今回はスカイシステムがある「デビルズダイク」についてお話します。

ロンドンから車でも列車でも約2時間。ブライトンというイギリス南岸のなかでは結構大きな街まで行き、そこから車で30分も行ったところにフライトエリアデビルズダイクがあります。そこは山といったらよいのか、そのテイクオフから見る雄大な景色は目を見張るものがありました。南北にうねる丘（山？）のテイクオフ地点は優に30機以上は並べられるという芝生で、数機がフライト準備をしていました。彼らが飛ぶのを待つ間、ランディング場を眺めに下方に移動したところ、眼下に広大なランディング場があらわれ、言葉が出ませんでした。おそらく、テイクオフ後はもっとスケールの大きい壮大な景色が視界に一度に飛び込んでくるに違いないと思います。一方、風は次第に弱まり、強めの風を待っていたフライヤー達は仕方なさそうに１機2機と飛び立って行きましたが、やはり思惑通りランディング場そばの道路脇に着地した模様でした。球場が４つも入るぐらいのランディング場の中央ではなく道路脇に下ろすということを聞いて「気持ちは一緒だなぁ」と思いました。高度差は実際100mもないそうですが、サーマルヒットが多く、トップランディングが容易とのこと。現地を見れば納得できる地形と、日本とは違う気候からでしょう。冬真っ只中にあって、日射こそ少なかったのですが、これといった強風がなく、雨はシトシト降るばかり。外の雨水が凍ることはまずないそうです。リッジフライトにいたっては1～2kmくらいの尾根間で楽しんでいるようです。

広大なランディング場に唖然。

スクールではスクールスタッフが面白おかしく教えてくれましたが、了解事項の話となると校長に聞いてくれといいます。その辺もスタッフとの申し合わせが徹底していると思いました。それは本音と建前ではなく、事故の誘因にならないよう、校長とスタッフは忠実にスクールシステムを実行しているということでした。そしてそのことは自分が最も学ばなければならないことでした。

デビルズダイクの詳細を知りたい方は、SET三陸パラグライダースクールの八幡までご連絡ください。TEL.0192-44-3711 FAX.0192-44-3713

■八幡信雄　やはたのぶお
PG歴13年。昨年、念願の教員検定に合格した。

@sky

● 大会報告 ●

翔春！学生フライヤー大集合

第4回日本ハンググライディング学生選手権 高橋元樹、学生チャンプに！

3月2日から5日まで、福岡県田主丸町耳納山エリアで繰り広げられた熾烈な（？）戦いを実行委員長が自らレポート。

■大会初日

開会式で田主丸町長さん、スカイスポーツ協会の会長さんに歓迎を受けた選手総勢56名は、続々と耳納連山テイクオフへ。この日、耳納テイクオフはランディング場の寒さからは考えられないような陽気で、動くと汗ばむほどでした。板垣直樹さんの説明によると、これはランディングとテイクオフが逆転層になっているからとのこと。が、逆転層を突き破るサーマルが山頂から発生しているので、それをつかまえれば一気に上昇できるという説明を受けました。実際、全パイロンを回れる選手と、ミニマムさえとれない選手と、差がはっきり出る競技になりました。山際の弱いリッヂで粘ってなんとか山頂まで上げ、サーマルをつかめた選手は一気にパイロンを回れたのです。ただし、アウトサイドは0点となるため、フルパイロンした選手も最後まで気をぬけず、慎重にランディングしてきました。フルパイロンしたのにアウトサイドで0点だった某Ｔ氏、もといＲ嬢はショックで暴れまわり、大会本部が壊滅状態に陥るという事件もありました。（冗談）

■大会2日目

基本的に南風、つまり耳納にとってはフォローの1日。でも選手は皆、臆することなくテイクオフしていきます。昼頃にはサーマルブローの北風も入り、また、コンディションの崩れが予測されたからです。

サーマルは沖の方で発生しており、選手は皆そこに突っ込んでいきました。しかし、予報どおり、コンディションは徐々に崩れ、テイクオフの遅れた選手はぶっ飛びになってしまいました。ブリーフィングでの情報からいち早く判断を下せた選手のみが点数を獲得できた模様です。

■大会3日目

あいにくの雨。競技は中止でしたが、ランディング場の使用法について問題が発生していたため、選手とスタッフとで検討しました。この話し合いは選手にもエリアに対する配慮を持ってもらういい機会だったと思います。その後は解散。選手は思い思いの方向へと遊びに出かけていきました。

夕方からレセプション。スカイスポーツ協会の会長さん（商工会長さん）も遊びにきてくださいました。我ら学生のヒーロー（？）高橋元樹さんたちからいろいろためになる話などを聞きつつ、レセプションは盛り上がっていきました。出された料理はしし鍋、おでんにキムチ鍋。その他鍋物各種で、地元パイロットの木山さんと熊本大学スタッフの力作でした。紅乙女酒造、田主丸町長、田主丸スカイスポーツ協会会長よりお酒の差し入れもありました。

この宴会がいつまで続けられたのかは、途中で仕事に戻らなくてはいけなかった僕にはわかりませんが、みんな頑張って飲んでました。明日も大会あるんですけどぉ。

■大会最終日

いよいよ大会最終日。晴れてはいたものの、サーマルは弱く、なかなか上昇できませんでした。ランディングとテイクオフのちょうど中間点に巨大なガーグルが出現し、次々と選手を飲み込んでいきました（というか選手がどんどんガーグルに入っていった）。しかし、ガーグルから山に帰れた選手はほとんどなく、従ってミニマムを回れたのも1人という状況でした。

ランディングの田んぼには昨日の雨で水がはっており（まさに水田!!）、水しぶきと共にランディングしてくる選手に歓声が上がっていました。

閉会式は定刻通り始まり、協賛10社のご提供によるさまざまな賞品が選手に授与されました。皆、賞品をもらってとても嬉しそうでした。

そんなこんなで第4回日本ハンググライディング学生選手権、略してＨＧ学選は怪我人もなく、無事終了しました。大会の準備、運営というのは僕（なんちゃって実行委員長）にとって初めての経験ばかりでしたが、この大会が成功できたのは選手、スタッフ、そして応援、協力してくださったさまざ

耳納テイクオフでのパイロットブリーフィング。

トップ 3。右から 2 人目がチャンピオン高橋。

連絡ノート JHF フライヤー

●事務局からお詫び

現在、JHF事務局では、フライヤー会員データを一元管理するため、コンピュータシステムを新しく構築中ですが、1月・2月に一時的に着信メールの読み込みに支障がありました。いただいたEメールにはすべてお答えしていますので、万一「まだなんの返事もない」場合は、読み込みに失敗したと思われます。

お手数ですが、再度 jhf@skysports.or.jpまで送信してください。ご迷惑をおかけしたこと、お詫びします。

●事務局からお願い

技能証申請書に添付する学科認定書について、事務局のミスで「コピー可」となっている書類がありますが、正しくは「コピー不可」です。ご注意ください。

●学科検定員制度廃止

1月の理事会でJHF学科検定員制度の廃止が決まりました。4月1日から、JHF教員（教員証が有効な人）であれば誰でも、随時学科検定を行うことができます。学科検定を受けたい人は、近くの教員に連絡してください。JHFホームページにも学科検定スケジュールを載せています。

●募集！　セイフティセミナースタッフ

JHF普及事業室（担当理事：田中美由喜）では、2000年度事業として「パラグライダーセイフティセミナー」を開催する予定です。このセミナーは昨年に続き2回目。

パラグライダー教員・助教員が対象で、パラグライダーの安全性に対する理解と技術の指導を、水上での実際のフライトを通して行います。

JHFでは、このセミナーの講師と運営スタッフを募集しています。講師の応募資格は、次の1～3を満たす技術及び知識を持っている人。

1.有効なパラグライディング教員証を持ちDHVのフライトテスト項目を実際にデモンストレーションすることができ、内容を理解している。

2.無線でフライトのアドバイスを行い、安全にパイロットを誘導できる。

3.マヌーバーについて理論的に説明できる。

開催は9月または10月の3日間になる予定。ご協力いただける方はJHF事務局にご連絡ください。応募は5月31日までに。

まな方々のおかげだと思っています。

本当にありがとうございました。そしておつかれさまでした。　板倉正卓

■上位成績

［総合］

1位	高橋	元樹	習志野HG	780.3点
2位	松村	貴博	大阪大学PFC	732.6点
3位	稲手	謙二	京大zephyr	649.6点
4位	中東	秀夫	名古屋大HG	620.6点
5位	武	靖浩	京大zephyr	586.1点
6位	桜井	大郎	中央大学HG	579.9点
7位	井上	元気	EPO	500.6点
7位	野呂	文人	EROSPAC	500.6点

［女子］

1位	黒図	奈々	SKYDUST	104.9点
1位	村井由香利		SKYDUST	104.9点
1位	竹原	愛	鳥大HG	104.9点

翔春！学生フライヤー大集合

Paraglider Student Festival

悪天候にも負けず「学生のお祭り」開催。

学生パラフライヤーが長野県高嶺エリアに集結！　101名の熱気が雪をも解かす勢いだったが……

「全学生パラフライヤーに告ぐ！！2000年3月8日、長野県高嶺エリアに集結せよ！」との掛け声で始まったパラグライダースチューデントフェスティバルが、3月8日から10日まで長野県高嶺エリアで開催された。エントリーは101名、A級からXCまですべてのレベルの学生フライヤーが、ビギナー、オープン、エキスパート、3つのクラスで技を競ううこととなる。

■練習日

北は北海道、南は鹿児島から選手達が続々と集まり、たくさんの横断幕で飾り付けられたランディング場は再会を喜び合う選手達で溢れ、華やかな空気に包まれた。しかし、天気予報では、北海道上空を通過中の低気圧の影響で8日・9日はコンディションが悪い。この日は早朝日射があったものの曇り。テイクオフへ上がるのを見合わせ、各クラス競技説明の後、ランディング場でパラザックレース、グラハンダッシュを行う。ここで緊急事態発生！　山岳エリア特有の

「学生のお祭り」ならではの、この熱気！

早いコンディションの変化で何と雪が舞いはじめる。マジですかー！と思っている間にも雪はどんどん激しさを増し、さすがにレース中止。会場を室内に移し、協賛各社の豪華な面々によるフライトセミナーが行われた。真剣な眼差しで聞き入る学生に、セミナーにも熱が入る。

■大会初日

昨日からの雪が降り続く。競技キャンセル。早めにレセプション会場に移り開会式、ゲーム、レセプションを行う。レセプションではこの日20歳の誕生日を迎えたスタッフの藤木美穂さんの、本人には内緒で計画したびっくり誕生パーティーが行われた。何と彼女に愛の告白をする者が現れ、さらに予定外のちょっとまったー！！の声が上がり会場はやんやの大歓声。明日こそ飛べるとの期待を残し夜がふけていった。

■大会最終日

天気は快晴。しかし低気圧が抜けきらず、フォローの北風が強い。テイクオフスタッフ総出の早朝雪かきも報われず、午前10時30分、天候好転はないとの判断から無念の競技キャンセルが告げられ、大会は不成立となる。そして最終的な順位を決めるため、スーパー宝捜しゲームが行われた。その後選手達はテイクオフを見学に行き高嶺エリアのスケールの大きさに感激し、壮大な景観に歓声をあげていた。閉会式では、各入賞者にスポンサーからいただいた豪華賞品と手作りの賞状が授与された。

最後まで天候に振り回されたものの、スタッフ一丸となって選手達を盛り上げ、文字どおり、スチューデントフェスティバル「学生のお祭り」となったこの大会は、大会実行委員長の涙によって幕を閉じた。

水島　仁

Cooウィンターカップ

2000年2月11日～13日

茨城県新治郡エアパークCoo

［総合］

1位	川地	正孝	神奈川県　1000点
2位	扇沢	郁	富山県　914点
3位	辻	強	石川県　835点
4位	只野正一郎		兵庫県　799点
5位	西ヶ谷一志		埼玉県　793点
6位	伊澤	光	東京都　791点

［女子］

1位	田中美由喜		東京都　530点
2位	植田	明美	兵庫県　343点
2位	水沼	典子	栃木県　343点

★ 3日間とも晴天に恵まれながらも西がらみの季節風に阻まれ、1・2日目はキャンセル。3日目、ようやく西面のパイロンを使い、タスクが成立。20kmのタスクを2サーマルで回りきり、唯一1時間を切る好タイムでゴールした川地正孝が2000年最初のポイント大会を制した。　神山和子

空のかお

その31

Andy Stubbings さん

イギリスから日本にきて9年になるアンディ・スタビングスさん。その間に結婚され、そして今年の1月に新米パパになりました。4年前、奥様のともこさんとバイクでツーリング中にパラを見かけたのがきっかけで奥様と共に筑波でパラを初めた。イギリスではスカイダイビングの経験もあり、ターゲットを狙うのはお手のもの。スカイスポーツ大好きのアンディさん。今年の2月に晴れてP証を取得、次なる目的は「絶対にXC！」とやる気満々。いつか家族そろって空を飛びたいという素敵な夢がかないますように。これからは日本各地の空を楽しんでください。（写真左から、ともこさん、アンディさん、ジェームス光くん。）

2月・3月のパイロット証取得者

（敬称略　数字は技能証No.）

パラグライディング

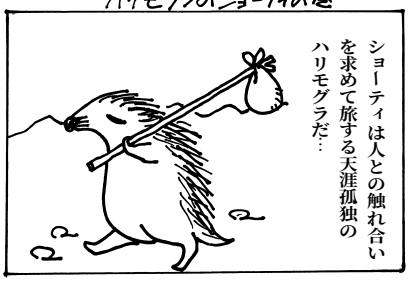
18304　青木　伸天
18305　太田　真一
18306　山崎　弘幸
18307　櫻井　文夫
18308　小武海幹雄
18309　松井　容子
18310　石原　美香
18311　城戸奈緒子
18312　高橋　芳明
18313　木村　徹
18314　遠藤　光雄
18315　松田　由美
18316　工藤　一恵
18317　ANDREW JAMES STUBBINGS
18318　田島　秀樹
18319　谷村　淳子
18320　小儀　正勝
18321　井上　雅詔
18322　黒木　一江
18323　藤牧　義彦
18324　望月　稔夫
18325　安藤　征夫
18326　三谷　芽生
18327　長濱　千恵
18328　石井　明
18329　小堤　美枝
18330　上杉　幸江
18331　萩原　正治
18332　前田　陽男
18333　清水　利晃
18334　河本　泉
18335　岩　憲郎
18336　伊野　義一
18337　西田　聡
18338　名和　長圀
18339　宗像　勝彦
18340　足立　英雄
18341　多良　信幸
18342　鈴木　樹理
18343　宮田　寿輝
18344　桐谷　静央
18345　宇田　和弘
18346　田鍋　清
18347　酒井　順子
18348　西原　祐一
18349　波木井　潔
18350　長島　弘
18351　木村　充伸
18352　佐藤　道雄
18353　関　和俊
18354　池田　幸子
18355　降矢　康浩
18356　三浦　淳民
18357　波田野好彦
18358　土屋　正次
18359　中村　幸宏
18360　北川　公一
18361　那須　公夫
18362　小谷　卓三
18363　上條　誠二
18364　寺田　文夫
18365　新井　啓文
18366　小池　誠一
18367　高梨　忠志
18368　斉藤千恵子
18369　左合　昭雄
18370　発坂　耕治
18371　長　龍一郎
18372　井上　康弘
18373　水澤　香月

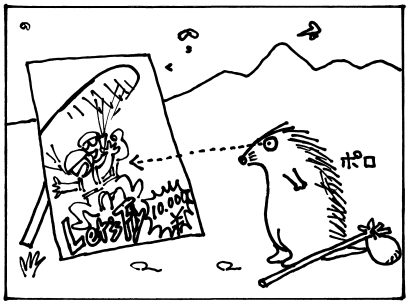
ハンググライディング

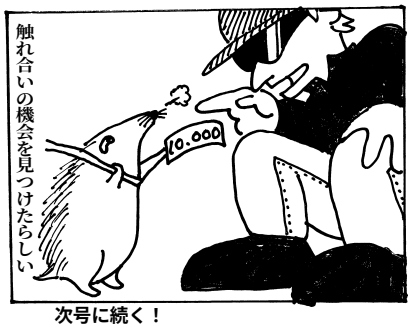
4840　安積　宏幸
4841　元山　工
4842　國本　健司
4843　大河原秀暢
4844　平野　健太
4845　稲葉　敬昭
4846　山本　健太
4847　松尾　英彦
4848　板倉　正卓
4849　佐藤　敬之
4850　堀ノ内洋一
4851　篠原　洋介
4852　水本　達也
4853　永井　集
4854　中野　彰
4855　西　政樹

@sky

Animal farm
ハリモグラのショーティの巻







次号に続く！

カレンダー

場は開催地、連は連絡先です。

5月　2000

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1	2	3 憲法記念日	4 国民の休日	5 こどもの日	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月　2000

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■4月29日〜5月6日　滑空機大会
平成12年度日本滑空選手権大会（クラブクラス）　場群馬県板倉滑空場　連日本航空協会☎03-3502-1209

■4月30日〜5月5日　HG大会
2000年ハンググライディング日本選手権in岩手　場岩手県遠野市遠野エリア　連佐藤研二☎0197-25-2197　E-mail:rhc03232@nifty.ne.jp

■5月3日　PG大会
鳴倉山オープンカップ新潟県パラグライダー選手権大会　場新潟県北魚沼郡鳴倉山エリア　連大会実行委員会☎02579-2-7837

■5月3日〜5月5日　PG大会
Millennium究極の鏡山カップ（Jリーグ対象大会）　場宮崎県東臼杵郡北川町鏡山　連大会実行委員会☎0982-46-2001（北川町役場企画課内）

■5月3日〜5月5日　HG大会
第16回池田山スカイフェスティバル　場岐阜県揖斐郡池田町　連池田山フライト協会☎058-275-6642

■5月3日〜7日　PG大会
2000立山らいちょうバレーカップ（Jリーグ対象大会）　連大会実行委員会☎03-3608-8626（アエロタクト内）

■5月5日・5月6日　PG大会
パラグライディング浦幌町長杯2000十勝太スピードレース　場北海道十勝郡浦幌町黄金の滝エリア　連北太平洋浦幌パラグライダークラブ蛯名伸一☎011-801-4815

■5月9日　学科検定PGパイロット、HGパイロット、PGノービス、XC、PGタンデム、PG補助動力の学科検定　場横浜市東戸塚地区センター会議室　連YOKOHAMA SKY SPORTS CLUB☎0460-3-6958

■5月13日・5月14日　PG大会
鳴倉カップ（Jリーグ対象大会）　場新潟県北魚沼郡鳴倉山エリア　連大会実行委員会☎02579-2-7837

■5月13日・5月14日　JAAイベント
スカイレジャージャパン2000イン関宿　場千葉県JSS関宿　連航空協会内SLJ実行委員会☎03-3502-1209

■5月18日〜21日　HG大会
ハンググライダー関西選手権2000　場和歌山県那賀郡紀ノ川フライトパーク　連大阪府フライヤー連盟競技委員会（宮浦博之）☎0729-86-2000

■5月20日・5月21日　PG大会
第8回DKスカイジムPGカップイン朝霧（Jリーグ対象大会）　場静岡県富士宮市DKスカイジム朝霧　連DKスカイジムフェスティバル実行委員会（第一興商スカイレジャー事業部）☎03-3280-0861

■5月27日・5月28日　PG大会
2000年パラグライダー尾神カップ（Jリーグ対象大会）　場新潟県尾神岳　連大会実行委員会（吉川町役場産業課内）☎0255-48-2311

■5月28日　学科検定
XCの学科検定　場茨城県新治こまちパラグライダークール　連新治こまちパラグライダースクール☎0298-62-5355

■6月4日　学科検定
PGノービスの学科検定　場茨城県新治こまちパラグライダースクール　連新治こまちパラグライダースクール☎0298-62-5355

■6月11日　学科検定
PGノービスの学科検定　場岡山県阿哲郡大佐町おおさネイチャークラブ講義室　連おおさネイチャークラブ☎0867-98-3400

〈FAI公認国際大会〉

■6月16日〜24日　HG大会
女子ハンググライディング世界選手権　場ギリシャ　日本チーム（選手5名）が参加する予定

■6月18日〜24日　PG大会（PWC）
ワールドエアゲームズ（パラグライディング世界選手権）プレ大会　場スペイン

■6月24日〜7月6日　HG大会
ワールドエアゲームズ（ハンググライディング世界選手権）プレ大会　場スペイン

3月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	1月31日までの登録数	2月の登録数	3月の登録数	有効登録数
1年	392	217	385	994
3年	330	205	273	808
合計	722	422	658	1,802

2月・3月の技能証発行数

ハンググライディング				パラグライディング			
技能証種類	2月の発行数	3月の発行数	3月31日の発行数累計	技能証種類	2月の発行数	3月の発行数	3月31日の発行数累計
P証	2(0)	14(0)	4,855	P証	36(11)	34(5)	18,373
C証	10(4)	18(2)	6,820	NP証	35(8)	67(14)	8,886
B証	2(1)	10(2)	11,406	B証	54(16)	56(21)	39,887
A証	3(2)	10(1)	10,819	A証	59(20)	75(28)	43,338
補助動力証	0	0	124	補助動力証	1(1)	0	908
XC証	8(0)	5(2)	1,105	補助動力NP証	0	1(0)	65
タンデム証	0	0	25	補助動力B証	0	2(0)	125
				補助動力A証	0	4(0)	156
				XC証	11(1)	16(1)	3,619
				タンデム証	16(2)	22(1)	236

＊(　)内の数字は発行数中の女性の人数です。

●編集を終えて

JHFレポートが脱皮して、ひとまわり大きくなりました。今までにない大胆なレイアウトもしてみました。号を重ねる度に成長していけるようこれからが勝負！です。皆さんの寄稿、お待ちしています。ご協力、よろしく。　JHF広報出版局

JHFホームページもご覧ください。
http://jhf.skysports.or.jp/

JHFレポート5・6月号（No.159）
発行日　2000年4月20日　定価10円
発　行　(社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003　東京都文京区春日2-24-11
春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311　FAX.03-5840-8312
編　集　JHF企画部広報出版局
印　刷　日本印刷(株)
この印刷物は再生紙を使用しています。